

## 「Japan: Dancing to Support」寄付金事業報告書

NPO法人 女性ネットS a y a - S a y a

東日本大震災の復興に向けての支援を私たちは、様々な形で行ってきました。このたび、「Japan: Dancing to Support」宮城様より、寄付金をいただき、私たちは、下記のプロジェクトを実施いたしましたので、ご報告申し上げます。

当初の計画では、盛岡の女性センターと協働し、震災の被害を受けた母と子どもの支援をする支援者の養成講座を開催しようと考えていましたが、現地の団体は、通常業務に加え被害者の支援に追われていますので、当面共同での事業は困難と判断し、別の団体と協働して被害者支援を実施することにしました。

今回、私も、現地での傾聴ボランティアに行ってみましたが、生きていくことの生活に追われ、日々大変な思いをしておられる方がほとんどでした。その中でも、震災を体験した子どもたちのケアまでなかなか行き届かないこともあり、このようなケアを立ち上げた「アート&セラピー色彩心理協会」と協働していくことにしました。「アート&セラピー色彩心理協会」は、私たちの団体も何度か協働し、DV被害の母親と子どもたちのワークショップを実施した団体です。今回は、東日本大震災にあたって、「東日本支援クレヨンネット」を立ち上げました。今回の助成金は、この活動を支援し、協働することに使わせていただきました。

## 東日本大震災支援「子どものアートセラピー」事業報告書

### ●事業概要

この度の東日本大震災に際し、「アート&セラピー色彩心理協会」では「東日本支援クレヨンネット」（共同代表：末永蒼生/江崎泰子、担当：馬目佳世子）を3月14日に立ち上げました。

阪神淡路大震災のときに1年間に渡って行った「空飛ぶ子どものアトリエ」（メンタルケアを目的としたお絵描きボランティア）の経験を活かし、被災した方々のアートによる「心のケアボランティア」活動を行なっています。

※クレヨンネットの活動資料添付（別添①）

### ●活動内容

福島県いわき市において、2011年12月と2012年2月に、NPO法人女性ネットS a y a - S a y a の協力により、お絵描きによる子どものケア活動を実施しました。

いわき市は地震や津波で被災した地域である他、原発事故の影響も受けています。また、原発の避難地域にある市町村の方々が、比較的近くのいわき市内にコミュニティーを形成されていて、その人たちと元々の住民との間にも軋轢があり、非常に複雑な状況を作り出しています。子どもたちは外遊びが禁止されていたり、いつまで続くかわからない制限された生活に、市民はストレスを溜め込んでいる状況。

いわき市における活動は、2011年4月から定期的実施していますが、今後も継続して活動いく予定です。

①いわき芸術文化交流館アリオス主催 こどもプロジェクト「あそび工房」（こどもプロジェクトは、いくつかのボランティア団体にて運営されている活動です）内にて、「色あそびワークショップ」

を実施しました。

※当日配布された資料添付（別添②）

- ・日時： 2011年12月23日（金・祝）14:00～16:00
- ・会場： 福島県いわき市 いわき芸術文化交流館アリオス
- ・参加人数： 90名（子ども60名、大人30名）

②いわき市平にある坂本紙店において、お絵描きによる子どものケア活動を実施しました。

※チラシを添付（別添②）

- ・日時： 2012年2月11日（土）10:30～12:30/13:30～15:30
- ・会場： 福島県いわき市 いわき芸術文化交流館アリオス
- ・参加人数： 10名（子ども7名、大人3名）

●収支報告書

収入		支出		
Japan: Dancing to Suppor よりの寄付金	61,883	画材代	23,000	2回分の画材費補填分
		送料	3,500	
		交通費	33,500	12/23 スタッフ4名 2/11 スタッフ1名（東京—いわき間高速バス）
		通信費、雑費	1,883	電話、メール、コピー代など
合計	61,883	合計	61,883	

## ●活動内容

両日とも、子どもたちはとても楽しそうでした。思い思いに創作をして、心の中にたまっているものを表現して帰りました。親御さんたちも、ふだん見られなくなってしまった笑顔に元気をもらっていた様子でした。

### ◆12月23日 アリオス



### ◆2月11日 坂本紙店

